

庄内大豆通信

第 2 号

令和5年5月19日

庄内総合支庁農業技術普及課 TEL: 0235-64-2103 FAX: 0235-64-2104

適期播種は高品質・安定生産の第一歩！

大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬です。適期播種が初期生育の確保に繋がります。以下の3つのポイントを押さえ、準備を進めましょう。

1. 播種量確認と種子消毒
2. 播種適期は5月下旬～6月上旬
3. 除草剤散布は播種後3日以内に

1. 播種前の準備

(1) 播種量

播種量は、目標とする栽植密度によって変わるため、下表を参考に設定しましょう。

表1 播種量の目安

品種	播種量 (kg/10a) ※	栽植本数 (本/10a)	畝間×株間・1株本数
リュウホウ	3.7～4.4	12000	75cm×20～17cm・2本
エンレイ	4.0～4.7	～	
里のほほえみ	4.7～5.5	14000	

※想定した百粒重：リュウホウ28g、エンレイ30g、里のほほえみ35g

- ◆目安どおりの播種量になるよう、播種前に必ず播種機を調整しましょう。
- ◆適期よりも早い播種は、倒伏や蔓化につながるため避けましょう。
- ◆播種が適期よりも遅くなる場合は、生育量を確保するために目標栽植本数を多くします。(15,000本/10a、畦間75cm×株間16cm程度)

(2) 種子消毒

剤ごとの対象病害虫を確認して使用しましょう。

表2 主な種子消毒薬剤と適用害虫

適用病害虫 薬剤名	ネキリムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	タネバエ	紫斑病	茎疫病	苗立枯病	黒根腐病	鳥害
クルーザーFS30	○	○					
クルーザーMAXX	○	○	○	○	○	○	ハト・キジバト
キヒゲン		○	○				ハト
キヒゲンR-2フロアブル		○	○		○		ハト・カラス

2. 適期に播種しましょう

大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬です。

播種が遅れると、開花までの生育期間が短くなり、分枝数や着莢数の減少につながります。そのため、生育量の確保には適期内の播種が重要となります。

○しっかりとした湿害対策

土壌中の水分が高まると、種子の発芽不良、腐敗などにより出芽率が低下します。播種後に明渠が排水口まで繋がっているか随時点検しましょう。

○出芽安定のために、播種深度の目安は3 cm

「里のほほえみ」等の大粒品種は出芽に要する水分量が多いため、播種深度が浅すぎると干ばつ時に出芽不良となります。播種前後に降雨がなく、圃場の過乾燥が見込まれる場合にはやや深く（5 cm程度）します。

反対に深すぎると湿害の発生が懸念されます。

3. 播種後3日以内に除草剤散布をしましょう

問題となる雑草の草種に効果の高い薬剤を選定し、以下のことに注意して使用します。

○土壌処理剤を効果的に使用するには

土壌が乾いた状態で十分に碎土（2cm以下の土塊が7割）し、土壌処理剤の効果を高めましょう。

圃場が乾燥しすぎると効果が劣ります。乳剤の場合、登録の範囲内で希釈水量を増やし、ゆっくり散布します。

降雨時または大雨前の使用は、効果の低化や薬害のおそれがあるので避けましょう。

土壌処理剤の散布後すぐに土を動かすと効果が劣るため、散布後2~3週間は中耕・培土を避けます。

◆噴霧器に詰まりがないか作業前・作業中に点検しましょう。

◆ドリフトによる他作物への薬害を防ぐため、散布時の水圧・風向き等に注意しましょう。

難防除雑草に注意！！

帰化アサガオ類、アレチウリが圃場内に侵入・蔓延すると根絶は困難です。

圃場周辺で発見したら、必ず雑草の開花・結実前に手取りや非選択制茎葉処理剤で除去しましょう。



写真1 アレチウリの葉
写真2 帰化アサガオ
(農研機構、警戒すべき帰化雑草「アレチウリ」
-大豆畑への侵入が危惧される雑草-より)

**農作業中の事故
を予防しましょう！**

ヘルメット・シートベルトを着用

